

タマガイ科 殻長 3cm。殻は白色で薄い淡褐色の殻皮がある。蓋は特徴的で、二つの成長縁を持つ。分布は房総半島・男鹿半島以南。潮間帯から水深 20m の細砂底に生息する。

バカガイ *Mactra chinensis* Philippi (目八) 馬鹿貝、馬珂



バカガイ科 殻長 7cm。殻は薄質でよく膨らむ。殻表は薄い黄褐色の殻皮をかぶる。分布はロシアのサハリンから日本全域、中国大陆。

産卵期は 4～6 月。1 年で殻長 3cm、3 年で 6cm。時に大発生がみられる。剥き身を「青柳（あおやぎ）」、貝柱は「あられ」「子柱」と言う。「あおやぎ」とは千葉県の地名（市原市青柳）でバカガイの名産地だった。

和名には、いくつかの説がある。①赤い大きい足を殻からだした様子が、馬鹿が舌を出したように見えた。②干潟でも貝殻を空けている。③大量に採れて価値が無い等々。

バカガイの古名に湊介（みなとがい）と言う美しい名前もある（目八他）。

ハナムシロ *Zeuxis castus* (Gould) (六介) 花筵

ムシロガイ科 殻長 3cm。分布は三陸以南。

本海域では 2008 年頃から見られるようになり、2010 年頃には減少した。専門家の間で、本種はハナムシロではなく、移入種ではないかとの意見もある。



ハマグリ *Meretrix lusoria* (Roding)

(目八) 文蛤・浜栗



写真左：多摩川河口（2005年7月）（殻長94.4mm）。このタイプのハマグリは、近年まったく採れていない。

写真右：近年採れているハマグリのタイプ。疑念はあるがハマグリとして扱う。

熊本県産等の表示で市販されているのも写真右のタイプ、商品名は「はまぐり」として販売されている。なお、本種については「台湾ハマグリ」「シナハマグリとの交雑種」